

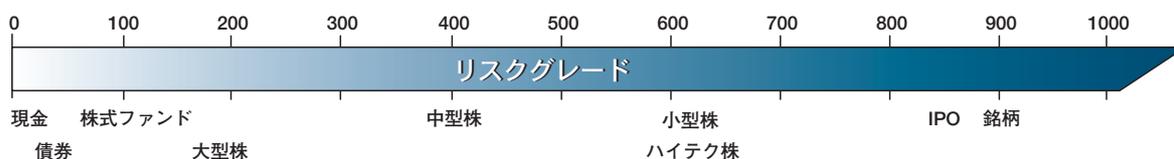
■ 「リスクグレード」とは

資産運用を考える際、必ず「リスク」と「リターン」という言葉が出てきます。リスクという言葉には「危険」「失敗する可能性」といったイメージがありますが、投資におけるリスクとは、株価や債券価格、市場金利等の将来における不確実さ、「予想どおりにならない可能性」をいいます。ソニーバンクでは、代表的なリスク管理手法であるVaR（バリュー・アット・リスク）の考えかたを、個人向けにアレンジした「リスクグレード」を通じて、リスクについて理解を深めていただきたいと考えています。

「リスクグレード」では、各種の資産や金融商品のボラティリティを「共通の基準」と比較することによって指数化し、同一の尺度による比較を可能にしました。過去データからボラティリティを算出し、今後1年間に最大でどの程度変動する可能性があるかを測定していることから、ボラティリティが高いほど「リスクグレード」高くなります。逆にゼロの場合、実質的にその資産にはボラティリティがないことを意味します。現金などがこれに該当します。

※ 「共通の基準」には、1995年から1999年までの平時における、国際的な株式市場（時価総額で加重平均したインターナショナルバスケット）の年次収益率のボラティリティを使用しています。

例1：資産クラスごとのリスクグレード



※ 資産クラスごとの平均的なリスクグレードで示すと、上図のようなイメージになります。

例2：通貨別リスクグレード

▼通貨	▼リスクグレード
円	0
米ドル	46
ユーロ	51

例3：ファンド別リスクグレード

▼ファンド名	▼リスクグレード
MONEYKitスタンダード (BGI日本債券インデックス)	16
MONEYKitスタンダード (BGI外国債券インデックス)	47
MONEYKitスタンダード (BGI日本株式インデックス)	111
MONEYKitスタンダード (BGI外国株式インデックス)	59

※ 例2、3のリスクグレードは2003年12月5日現在のものです。実際のリスクグレードは日々更新されます。最新のリスクグレードは、サービスサイトでご確認ください。

リスクメトリックス グループとは

1998年9月にJPモルガン（現、JPモルガンチェース）のリスクマネジメント部門が独立して設立。ニューヨーク、ロンドン、東京、シンガポールに拠点をもち、主要業務は金融資産ポートフォリオのリスク算定に関する研究・ソフト開発および販売・教育・コンサルテーション。同社のサービスは、金融機関を中心に世界中で600社以上に導入されており、特に同社が開発した「VaR（バリュー・アット・リスク）」は、リスク管理手法として事実上グローバル・スタンダードとなっている。

《リスクメトリックス グループのサイト》 <http://www.riskmetrics.com/lang/jp/>